



かけがえのない自然を 未来へつなぐ

樹木医 荒田 洋一 さん
あらかた しょういち
Youichi-Arata

亜熱帯から冷温帯までの気候帯を持ち、数千年の生命力を持つ屋久杉など世界的にも貴重な植物が多い世界自然遺産の屋久島。その屋久島で唯一の樹木医である荒田洋一さんは、傷を受けた縄文杉の回復治療にも携わるなど、ふるさとの森林を守る活動に奮闘している。希少生物の生育調査や海岸清掃などを行う「屋久島まるごと保全協会」の会長も務め、環境保護活動にも日々取り組んでいる。また、時にはガイドとして樹木医の目から森を解説し、自然のしくみや魅力を通じて身近にできる環境保全の大切さを伝えている。そんな自然をこよなく愛する荒田さんに、屋久島の大自然の魅力や環境保護への思いなどについて語っていただいた。

なぜ樹木医の道に

生まれも育ちも屋久島で、小学校の頃から山に入っては、シイタケ採りなどをしていました。高校時代には、山岳部に入り屋久島の自然に魅了されました。当時は、今と違って5月末から6月上旬のシヤクナゲの時期にはまだ積雪があったり、山にいても誰とも会わないことも結構多かったですね。ただ、山に入るたびに伐採が進み、山が荒れていくのが、とても悲しく、山の奥がどういう状態になっているのか、島の集落を回っては「先祖から引き継いだ今ある山を残していかなければ」と地元の人に伝え、屋久島の自然環境を守るための運動を続けていました。

大学を卒業後、地元の農協で22年間、果樹営農指導員として勤務しましたが、この経験を生かしながら環境保全につながるような仕事がないかと、探して見つけたのが樹木医でした。

樹木医としてどのようなお仕事か

樹木の病気の原因は、虫とか菌でなければ土壌の関係が一番多いので、まず土壌について一生懸命調べます。樹木の状態だけではなく、土壌や気象条件など周りの環境状況を含めて総合的に判断して、病気の原因を明らかにし、治療方法を決定します。科学的な裏付けに基づく分析が大切です。

数百年、数千年と樹齢を重ねてきた樹には畏敬の念があり、自分が治療に携わること、樹木の生命を維持するお手伝いできればと思っています。

樹木医になったばかりの頃に、地元
の永田小学校の校庭にあるセンダンの
木の治療を手がけました。2年かけて
土を掘り起こして腐った根を切り、土
壌を改良した結果、元気に回復してく
れました。同窓会の時に記念写真を撮
る大切な木だったので、みんなにも喜
んでもらえて、本当にうれしかったで
すね。

平成17年度からは傷ついた縄文杉の
治療も行っていますが、土壌改良の結
果、葉の量が倍増し、雪の重みに耐え
きれず枝が折れてしまうのではないかと心配しています。

また、ヤクシカによる食害で、縄文
杉の周りには植物がない状態になった
ことにより、樹勢が良くなりすぎてい
ます。そのため、縄文杉の周囲を網で
囲んでヤクシカの侵入を防ぎました。

縄文杉の周りに木が生え、その下に杉
の根があるような本来の自然状態に
もっていければ、樹勢も落ち着き、気
候変動に対しても強い状態になります。
弱ってはいけなけれども、元気にな
りすぎてもいけない。自然体系の中
のバランスがとれるように保つことは
大変難しいです。

屋久島の魅力や樹木の健康状況は

屋久島の魅力はやっぱり生命の種
の多様性です。海・山・野・川があり、一つ
の島でほとんど日本全部の自然を満喫
できる。それが一番の魅力だと思いま
す。縄文杉だけが島の魅力ではないの
です。原生林を觀賞できるヤクスギラ
ンドは、手軽に行けて屋久島の自然を
満喫できるので、お勧めです。一日かけ

てゆっくりと歩けば、かなり感性が豊
かになると思います。

「屋久島の自然はすごいという感動
をきっかけにして、自分の身の回りの
環境を知ってもらい、日常生活の中で
どういった環境保全ができるのかを考
えてもらうことにつながれば」という
思いで、自然の解説をしています。ガ
イドをしたお客さんから、「地元で自
然保護活動を始めました」と聞いた時
には、活動していてよかったと思いま
した。

今の屋久島の樹木の健康状況は、非
常に悪いです。大陸からの大気汚染に
よる化学物質が雨となって植物の中
に入り込み、全体の活性化が落ちていま
す。特に目に見えて、モミの木の衰退
が激しいですね。

また、屋久島では固有種を含めて
1300種類にもおよぶ植生が見ら
れますが、近年、ヤクシカの数が増え
て希少な植物などが食べられてしまい、
森の多様性が昔と比べると3分の2程
度になってきています。自然を守るた
めに各機関が連携した全体的な取り
組みを検討することが必要だと思っ
ています。

環境保全活動への思い

屋久島と種子島にのみ生育する絶
滅危惧種である松の一種「ヤクタネゴ
ヨウ」の保全活動にも参加しています。
正確な位置を把握して、直径・樹高を
計測し、健康状態なども調査するの
です。活動によって現存する木の全容を
把握し、生物種の絶滅に対する意識を

高めることができたいと思います。森
がなければ人は生きていきません。森
を育てていくためには、杉やヒノキだ
けではなく天然林の再生に取り組んで
いくことも必要です。

また、「自分たちが受け継いで相当
悪くしてしまった自然を21世紀を生き
る子供たちに改善して残していく」と
いうのが一番の役目だと思っており、そ
の活動の一環として子供たちに昔の山
の遊びを教えて、自然の魅力や楽しさ
を体感してもらおう山人学校21という
活動も行っています。

県民に何かメッセージを

樹木に対する愛着をもっと持って
いただけたらうれしいですね。鹿児島に
は身近に豊かな森林がいっぱいありま
すが、その素晴らしさや大切さを改め
て認識してもらえたらと思います。

ふるさとの自然を守り育てていくた
めには、一人ひとりが自然環境に対し
て意識を高めていくことが、ますます
重要になってくるのではないでしょ
うか。



種子島の鴻池小学校にあるヤクタネヨウ